



(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

田舎暮らし、その日暮らし

第1回 「野菜は無敵の園芸植物?!」

ホルティカルチャリスト (株)プランタス代表 月江 成人

4年前に北播磨の小さな農村に移住。築100年以上の古民家を改修しながら、ゼロからの庭&畑作りに奮闘する日々。石ころだらけの地面や嬉しくない野生生物の存在などに悪戦苦闘する毎日には、都会生活では得られない輝きと喜びが溢れています。そんな刺激的な田舎暮らしの一部をお伝えします。



しばしばご近所から畑でとれた野菜をいただく。いつも感心するのが、その立派なこと。丸々太った大根や白菜。それに比べて、我が家の菜園はというと…葉が巻かない白菜、中がスカスカのキャベツ、見事にピンポン玉サイズに揃った玉ねぎたち。家族の冷たい視線を感じながら、来年こそは絶対にうまくやると心に誓うも、すでに同じような状態が3年も続いてくと、そろそろあきらめの境地に入りつつある。

花づくりでは、肥料が少なくても、植え替えのタイミングが少々ずれて遅くなっても、花が咲いてくれることが多い。逆に、種類によっては、施肥を控え少し足りない方が病気もせずに元気によく咲いてくれることがあるくらい。それに比べ、野菜づくりでは、播種のタイミングがすごく大切であるし、施肥の量や時期など、少しでもずれてしまうと本当に貧弱な野菜しかできない。毎日、畑で作業しているすぐ隣のおじいさんは、私たちにとっての野菜づくりの師だ。どの品種が作り易いとか、やわらかくておいしいといったことを熟知している。彼が何か種を播くのを見て私たちも

慌てて種を播き、肥料をやれば、我が家の野菜にも慌てて肥料を与えたり。それでもなかなか同じものができない。

野菜づくりにおいては、忌み語でもある「^{とう}臺が立つ」という言葉。「植物の専門家だから、野菜の花もよく咲かせられるよ」と、いうのは洒落にもならない負け犬の遠吠えであるが、食べる気もしない我が家の菜園に残ったその貧弱な野菜から咲く花は結構きれいだ。蝶が飛び交い春の到来を演出してくれる大根や白菜の花、鮮やかな黄金色の花を咲かせる春菊にフラワーアレンジメントにも使えそうな人参など。そして、毛が逆立つほど私が愛してやまないコリアンダー。あの繊細な草姿に雲のようにふわっと咲く白い花は、同時期に開花するジギタリスやポピーなどと相性がよさそうだ。食して、鑑賞して、そして香りも楽しめる(?) さながら無敵の園芸植物である。

野菜の花も美しいなどとぶつぶつぶやきながら、まともな野菜が収穫できる日を夢見て挑戦する田舎暮らしの日々が続く。



収穫のよろこび



県民緑税を活用した都市の緑化の推進 ～県民まちなみ緑化事業～

兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課

○県民まちなみ緑化事業とは

まちなかを彩る花や緑は、私たちの暮らしに潤いとやすらぎを与えてくれるとともに、美しい景観形成や安全で快適なまちづくりに大きな役割を果たしています。

兵庫県では、こうした緑の保全・再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、平成18年4月に「県民緑税」を導入し、この税を財源として、「県民まちなみ緑化事業」を展開しています。

平成23年度は、県民参画の促進と公益性に応じた負担とするための見直し等を行い、以下のとおり募集を行います。

【事業の概要】

都市における環境の改善や防災機能の向上などを図るため、県民の皆さんによる植樹や芝生化などの緑化活動に対し、必要となる苗木や肥料などの緑化資材費等を補助します。

県民の皆さんには、植栽活動、植栽後の維持管理活動を行っていただきます。

【対象事業】

以下の緑化活動に必要となる苗木や肥料などの緑化資材費等が補助対象となります。

- ①一般緑化(植栽、生垣、修景)
空地、広場、公園、道路、河川沿い、土石採取跡地などへの植樹や生垣の設置
- ②校庭の芝生化
- ③駐車場の芝生化
- ④建築物の屋上緑化・壁面緑化

【対象地域】

- ・都市計画法に規定する市街化区域
- ・市街化調整区域のうち、特別指定区域・開発指定区域
- ・用途地域が定められた区域
- ・緑豊かな地域環境の形成に関する条例(緑条例)の「まちなみ区域」など

※②校庭の芝生化は、県下全域が対象となります。

【対象者】

- ・自治会・婦人会・老人会などの住民団体
- ・100㎡以上の緑化が可能な土地を所有(管理)する法人・個人など

※②校庭の芝生化は、PTA等の団体と学校等で構成される「芝生化実行委員会」に限ります。

【補助条件】

補助対象や補助限度額などを対象事業別に細かく定めていますので、詳しくは右ページの問い合わせ先までお尋ねください。



河川沿いの緑化(西宮市)



校庭の芝生化(豊岡市)



駐車場の芝生化(加古川市)



屋上緑化(高砂市)



[募集期間・手続き・問い合わせ先等]

①一般緑化(植栽、生垣、修景)、②校園庭の芝生化

- ア 募集期間：平成23年4月28日(木)～平成23年9月30日(金)
 ※所定の補助金交付申請書を先着順で受け付け、募集期間内であっても予定額を超えようとする時点で締め切ります。
- イ 申請書類等の提出先：各市町の都市緑化担当課に提出してください。
- ウ 問い合わせ先：各県民局土木事務所の担当課

地域	担当課	郵便番号	所在地	電話番号(直通)
神戸	神戸土木事務所 まちづくり課	653-0055	神戸市長田区浪松町3-2-5	078-737-2192
阪神南	西宮土木事務所 まちづくり建築課	662-0854	西宮市櫛塚町2-28	0798-39-1546
阪神北	宝塚土木事務所 まちづくり建築課	665-8567	宝塚市旭町2-4-15	0797-83-3191
東播磨	加古川土木事務所 まちづくり建築課	675-8566	加古川市加古川町寺家町天神木97-1	079-421-9064
北播磨	加東土木事務所 まちづくり建築第1課	673-1431	加東市社字西柿1075-2	0795-42-6176
中播磨	姫路土木事務所 まちづくり建築課	670-0947	姫路市北条1-98	079-281-9313
西播磨	光都土木事務所 まちづくり建築第1課	678-1205	赤穂郡上郡町光都2-25	0791-58-2256
但馬	豊岡土木事務所 まちづくり建築第1課	668-0025	豊岡市幸町7-11	0796-26-3756
丹波	丹波土木事務所 まちづくり建築課	669-3309	丹波市柏原町柏原688	0795-73-3863
淡路	洲本土木事務所 まちづくり課	656-0021	洲本市塩屋2-4-5	0799-26-3213

③駐車場の芝生化、④建築物の屋上緑化・壁面緑化

- ア 募集期間：平成23年4月28日(木)～平成23年9月30日(金)
 ○第1期受付は終了しました。
 ○第2期受付：平成23年7月1日(金)～平成23年8月31日(水)
 ○第3期受付：平成23年9月1日(木)～平成23年9月30日(金)
 ※各緑化手法(駐車場芝生化、屋上・壁面緑化)の第1期における受付が平成23年度の予定額を上回った場合、その緑化手法については、それ以降の受付を行いませんので、あらかじめご了承ください。(第2期以降も同様です。)
- イ 申請書類等の提出先：
 補助金交付協議書を兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課に提出してください。後日、検討委員会で審査を行い、予算の範囲内で補助金交付申請書を提出することができる案件を選定します。
- ウ 問い合わせ先：
 兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課緑化政策係
 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
 TEL:078-341-7711(代) FAX:078-362-9487

- 募集案内、申請書類等は兵庫県のホームページからダウンロードできます。
 ホームページアドレス http://web.pref.hyogo.jp/town/cate3_203.html

ガーデンクラブの紹介

兵庫県立がんセンターボランティアグループ(神戸市) 代表 保久良 眞澄

○発足の経緯

[元気な高齢者が地域活動のリーダーに]という明石市立高齢者大学校あかねが丘学園の教育方針の下に2002年4月から現役の学生さんが一体となり、がんセンターの花壇づくり活動が始まりました。

○活動内容

日当たり、日陰など条件の異なる16か所に及ぶ花壇を維持管理しているの、まず何よりも丈夫な植物を選ぶことを心がけています。日々試行錯誤の繰り返しです。毎月第2土曜日朝9時から2時間ほど、決して無理に時間を延ばさないというのが活動のポイントです。また少人数有志による週末の水撒きがこの活動を支えています。また自家採取の種から育てるローコストでの苗作りも大きな特徴です。



がんセンターの花壇の手入れをする会員たち

アルファグリーンネット (AGN) のなでしこの会の方々が2006年から加わり、素敵な山野草のコーナーも出来ました。バージニアストックなどのかわいい花で、患者さんたちの心が少しでも癒やされればとの思いで始めましたが、10年間ボランティアをやってみて、毎回参加される方々との楽しい語らい、毎月表情を変えて咲いてくれる花々のたくましさや健気さに癒やされているのは、自分たち自身であることを痛感しています。

また病院からは、大きなボランティア専用の物置を作ってください、コープこうべ、兵庫県の花いっぱい運動などの助成金もいただきました。これからもしっかりと連携して継続していきたいと思っています。高齢

化も進んでいますが、心あるメンバーの活動が、未永く続くことを祈っています。

鶉野中町花家族の会(加西市)

代表 尾花 幸雄

○発足の経緯

地元の公園が、あまり利用されておらず雑草が生い茂っていたので、6年前に草取りをして花壇を作ったのが始まりです。町内の10人でスタートしましたが、会員は徐々に増え、今では40代から80代まで25名になりました。

○活動内容

2009年には地元通学路の交差点に交通安全標語を立て、花壇を作りました。また2010年には地元道路の路肩を幅1mのべ1,000mにわたり整備して、ポチュラカとシバザクラを植え、その道路をフラワー



フラワーロードの花壇づくりに励む会員たち

ードと命名し、秋には地域全体でフラワーロード祭りを開催しました。

また加西市花と緑の協会に所属して、県立フラワーセンターで加西市全域に配布する花作りをしています。

2010ガーデンコンペ・ひょうご

花壇写真部門では、公園、公会堂、フラワーロードの3か所で奨励賞を頂き、会員の励みになりました。今年度は全国花のまちづくりコンクール全国大会にも応募予定です。

これからも地域の花壇をより多く作っていき、会員の親睦を図り、地域に貢献したいと思います。

とよおかオープンガーデンショー実行委員会(豊岡市) 代表 北井 進

○発足の経緯

東日本大震災から1ヶ月経った頃、私たちにできる



ことはないかといろいろ考え、被災された皆さんの悲しみや苦しみを、花と緑で少しでも癒す「心の支援」をしようと思い、木製プランターに宿根草を中心とした寄せ植えを作り、「コウノトリの箱庭」と命名し、それを被災地に届けることにしました。日本で永い年月をかけて絶滅から野生復帰した天然記念物コウノトリと、失意の中から立ち上がろうとされている被災者の姿を重ね合わせて名付けています。

今年5月に開催した「第10回とよおかオープンガーデンショー」で「コウノトリの箱庭」のサンプルを展示して、その製作費の募金を呼びかけました。第1便10箱は6月15日に但馬県民局を出発し、県ボランティアプラザを通じて神戸から「ボランティアバス」で宮城県に送り届けました。次回は8月4日から7日に会員が現地に出向き、仮設住宅に設置して、その後被災者

と交流する予定です。

多くの方に募金活動にご協力いただけたらうれしいです。

詳細は、インターネット「コウノトリの箱庭」で検索して下さい。



あれこれ思案して制作中の会員



①『コウノトリの箱庭』募金の振込み先

(振込み手数料 が必要です)

但馬銀行日高支店 □座番号 7123284

普通預金 まちかど発信局 北井 進

② 手書きロゴマーク入り『木製プランター』の販売

1箱3,800円(送料別)

材料費などの差額約1,000円を募金に充当させます。

のじぎくふれあい赤穂(赤穂市) 代表 東 洋子

○発足の経緯

「町をきれいにしたいなあ」という私の発した言葉に友人たちが賛同してくれたことがきっかけでした。私達の町・赤穂義士の町をお花いっぱいにして、観光客をお迎えしようと2007年、「のじぎくふれあい赤穂」を10人のメンバーで立ちあげました。現在は17名で活動しています。

○活動内容

私たちが花壇を手がけている赤穂城西外堀は当初、雑草や木々が生い茂り、小石等も多く、難儀な花壇づくりでした。なるべく手がからない四季折々に咲く花を選び、れんがでオブジェを工夫して作りました。観光客



花壇の手入れに熱がこもる

や地元の人達の往来が多いところで、「きれいね」、「ご苦労様」と声をかけられたり、写真を撮ったりされることがよくあり、それが私たちの励みになっています。また、草取りに汗を流し、最後に仲間の皆さんと飲む

コーヒーの味は格別です。

花緑いっぱい運動推進員の集まりで知り合ったアルファグリーンネット(AGN)や、中・西播磨の花緑グループの方たちと情報交換をしたり、アドバイスを受けたり、見学に来て頂いたりして交流を深めています。また、地元赤穂市の「花と緑のフェスティバル」に参加したり、寄せ植えや押し花(しおり・コースター・小物づくり)の出前講座の依頼を受けたりして、少しずつですが活躍の場を広げています。

これからも花や緑を通じて人々が交流し、花を思いやり、その命を大切にして、四季折々の花が咲き誇る季節感豊かな花壇を作り、通行人達を和ませて行けたらと思っています。



お疲れ様、とコーヒータイム

グリーンメッセージ

モロッコ王国・ハーブの旅

(財)兵庫県園芸・公園協会理事兼花と緑のまちづくりセンター長

国営明石海峡公園管理センター長、東京農業大学客員教授 石原 憲一郎

モロッコ王国は、北アフリカ西端部に位置し、古くからアラブ、ヨーロッパ、アフリカの文化の影響が混ざり合い、様々なコントラストが楽しめる魅惑の国です。8件のユネスコ世界文化遺産だけでなく、サハラ砂漠、アトラス山脈等の自然遺産も豊富で見応えがあります。

さて、今回の旅の目的は、アルガンの木の実から絞り出される‘アルガンオイル’に出会うためです。アルガンの木は、モロッコ特有のアカテツ科の灌木で、西部の町エッサウイラ付近に多く自生し、現在、樹林の管理が国家により厳重に行われています。アルガンオイルは、オリーブオイルに比べて栄養価が高く、約4倍のビタミンEが含まれており、食用油、化粧品、石鹸などに利用されています。モロッコ王国は、フランス領の時期もあったせいか、フランスでの消費が最も多く、女性に愛用されています。最近、徐々に日本でも知られるようになり、エスタやハーブ専門店には置いてあります。



アルガンオイルを搾る女性たち

モロッコでは、アルガンオイルだけでなく、ミントもよく利用されています。ホテルやカフェ（客は男性だけ）では、モロッカミントティーが大人気です。フレッシュミントの葉に角砂糖を入れ、やや高い位置から紅茶（最近は日本茶）を注ぎ、泡立てたところを飲みます。暑い国なので、ミント独特の、すっきりした清涼感とメントールの香りが、火照った身体を冷やすとのこと。

一般に、ハーブは、ヨーロッパで薬用やスパイス

として、極めて有用な植物として普及しましたが、我が国固有のハーブ（わさびやサンショウなど）も含めて、広い概念で捉える必要があり、衣食住や健康・福祉に取り入れ、私たちの生活の質を向上する重要な植物です。モロッコ国民のハーバルライフ（ハーブを活用するライフスタイル）文化の一端に触れて、我が国でも、もっと生活に取り入れる工夫と技術を普及しなければと感じる旅でした。



モロッカミントティーを入れる



なお、私事で大変恐縮ですが、この度、特定非営利活動法人JHS（ジャパン・ハーブ・ソサイエティー）の理事長に就任いたしました。これまで以上に、ハーバルライフの素晴らしさ、楽しさ、そして重要性を、より多くの皆様に普及啓発していきたいと考えていますので、どうぞよろしくご支援、ご協力をお願いいたします。

●●● 相談員ニュース ●●●

相談員 松浪 栄一・若松 康史

今年のこの時期の園芸

《ヒャクニチソウのタネまき》

タネをまいて自分で育てた花を楽しみましょう！ヒャクニチソウといえば、一昔前は草丈の高い、切り花用品種が多かったのですが、最近では草丈の低い花壇用品種が多くなり、呼び名も学名の「ジニア」が一般的になってきました。呼び名の変化とともに、切り花用品種の苗は入手しにくくなりましたが、絵袋に入ったタネは今でも販売されています。

春にタネをまいた場合は梅雨時期に苗が大きくなり、病気になりやすくなるばかりか、花が咲くまでに伸び過ぎてバランスが悪くなってしまいます。それに対し、今からタネをまくと、梅雨明けからは暑さをものともせず頑強に生育し、2ヶ月ほどで花が咲き、12月頃まで楽しむことができます。

スマートな緑花品種「エンビー」は、最近人気の花色。

育て方は実に簡単で、タネも大きくまきやすいのが魅力です。7.5cmのポリポットに市販の培養土を入れ、予め指等で浅くぼみを作っておきます。2-3粒まいてからタネを隠すように上から水をかけておくと、



3-4日で発芽します。その後1本に間引き、本葉3-4枚になってから花壇やコンテナに植え付けます。株の間隔は20-30cm、18cmポットであれば1本植えとします。タネから花を咲かせる喜びは格別です。

夏の水やりについて(鉢植え)

水やりは、水分の補給とともに土に新鮮な空気を送り込むことが大きな目的です。表面の土が乾いてきたら、たっぷり水を与えます。チョロチョロと与えただけでは、土の中の古い空気を追い出すことができないので、新鮮な空気も送り込めません。土に浸み込んだ水が鉢底から流れ出し、鉢全体に新鮮な空気が回ることによって根に酸素が供給されます。

夏の水やりはできるだけ、早朝や夕方の涼しい時間にしましょう。昼間にしておいてかわいそうと思っても、我慢します。炎天下で水を与えると一時的には回復するように見えますが、蒸れてしまい、かえって植物を弱らせてしまいます。(野菜を茹でているのと同じです)それでもどうしてもという時は、日陰に移して水やりをしましょう。また、開花中は花にかけないよう株元へ与えます。花に水をかけると蒸れたり花びらが散ったりして、花が早く傷む原因にもなります。咲いていない時は全体にかけましょう。高温で乾燥しやすい夏は、ときどきシャワーや霧吹きで葉水も必要です。ハダニの予防にも効果的です。ホースを使用する場合、ホース内に残っていた水が、日中の暑さでお湯になっている場合もあるので、少し流して温度が下がったことを確認してから植物に与えましょう。

園芸相談コーナー

写真や実物をご持参いただきますと、お話ししやすくなります。

10:00~16:00

火曜日を除く毎日

Tel 078 (918) 2405

Fax 078 (919) 5186

Eメールアドレス: info_midori@hyogopark.com

★★お気軽にどうぞ★★

「変化アサガオ」展の開催について

協力：高野哲司さん（甲南大学理工学部4年）

《テーマ：「変化アサガオのふしぎ」》

7月中旬から9月下旬にかけて「変化アサガオ」展を開催します。アサガオは日本独自の伝統的な園芸植物で夏の代表的な花ですが、最近では「変化アサガオ」と呼ばれるアサガオを観る機会はほとんどなくなっています。アサガオとは思えないような奇態の「花」や「葉」を是非この機会にご鑑賞ください。午前中が花の見頃になります。

「変化アサガオ」とは？

アサガオは、もともと変わった花形になる能力をもっています。通常では、この能力を発揮することはできませんが、「動く遺伝子」の作用による突然変異で生まれた、花や葉の形が変わったアサガオです。現在では絶滅寸前とされ、非常に貴重なものです。

夏休みの自由研究などにもご利用いただけるように成長の様子を追って撮影し、小学生向けの展示と併せて行います。

